

■協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て（笠縫小学校）

1 【活動の趣旨】

学校と地域・家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の自然や文化や産業に触れることで、その良さを知り伝えられる子どもの育成とその仕組みづくりを目指し、学校と地域が二人三脚で地域協働合校事業を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

○「栽培活動」

中庭の「ふれあい花壇」では、環境美化委員会の児童がボランティアの協力を得ながら、季節の花の栽培活動をすることができた。3年生は、地域の伝統産業である青花紙用の青花を栽培する「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染める体験もすることができ、地域の産業について理解を深めることができた。

○「地域の人から学ぶ」

2年生の生活科では、地域の商店等の協力を得て、それぞれのお店の工夫や思いを聞かせていただき、地域のお店に関心と親しみをもつことができた。6年生の総合的な学習の時間では、学区の「ふるさと絵」から、伝統の「サンヤレ踊り」や「上笠天満宮」などに関心を持ち、フィールドワークで取材を行ったり、ゲストティーチャーを迎えて話をうかがったりしたうえで、自分たちでも調べ活動を行って地域について理解を深めることができた。特別支援学級の子どもたちは、学区の民生委員児童委員さんと製作活動を通して交流を行った。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備していただいたりと、積極的に関わっていただいた。



【花の苗植え】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・学習支援などにあたっては、年度や学期の初めに地域コーディネーターと打ち合わせを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。
- ・ゲストティーチャーによる講話については、リモート中継やタブレットPCの録画機能を活用し、対面での実施を回避した。

4 【事業の成果】

- ・継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、読書や下校パトロール、授業支援などスムーズに活動できた。
- ・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。年間計画を見直す過程で、併せて必要となるボランティアについて整理していきたい。
- ・ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間をとることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように記録の方法を工夫していくことが必要である。